

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	担がん者の肝臓、脾臓でトリプトファン代謝に関与する細胞の解析
	研究目的	<p>がんの患者さんでは、がんの種類に応じて、20種類以上ある血液中のアミノ酸の濃度が様々に変化することが解っています。この変化を利用して、健常者の中からがんの患者さんをするスクリーニングする技術が開発されていますが、その精度はまだまだ不十分で、また、何故、がんの患者さんではアミノ酸濃度が変化するのか、詳細な原因の解明はなされていません。</p> <p>この研究では、2008年1月1日～2017年12月31日がんの手術の際に切り取られた肝臓や脾臓の病理組織標本の、診断に用いた残りの部分を使って、トリプトファンというアミノ酸を取り込む細胞が増えていないかどうかを検証し、アミノ酸濃度変化の原因の解明の一助にします。このような研究を積み重ねることで、このスクリーニング技術をより正確なものにしていくことができると考えています。</p>
	研究期間	西暦 2018 年 1 月 25 日 ~ 西暦 2020 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	宮城洋平
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	病理診断科、臨床研究所がん分子病態学部
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	味の素株式会社・バイオ・ファイン研究所・グループ長 影山 陽子